

GREAT ADVENTURES

Green Island

グリーン島 島内自由散策ガイド

外周1.6kmほどのグリーン島には、沿岸植物と熱帯雨林植物を含めて120種以上の植物が生息しています。

海岸線は、ビーチ沿いの比較的乾燥した気候に適した、灌木(かんぼく)の沿岸植物に囲まれています。

このガイドブックはインフォメーションカウンターに午後4時までにお返しください。

この内容はホームページwww.greatadventures.com.auからダウンロード可能です。

すが、島の中ほどに一歩足を踏み入ると、そこには、ツタ等の植物が生い茂る熱帯雨林が広がっています。グレートバリアリーフに浮かぶ300ほどあるサンゴからできた島の中でも、熱帯雨林の植物が茂るのは、実にこのグリーン島だけです。



i この案内シートにはグリーン島でよく見られる鳥や植物のことについて書かれています。グレートバリアリーフ上に生える草木や種を見て歩くには、地図に表示された番号を順に追ってお進

みください。グリーン島は約900あるグレートバリアリーフにある島々の中で唯一、サンゴが堆積してできた島の上に熱帯雨林の植物が生茂る貴重な島です。

グリーン島
のあまり知られていない
歴史にご興味をお持ちの
方は、マリナランド・メラネシア
(地図に印あり)の奥にあるカ
ラフルな、島の解説散策道
へ是非、お越し
下さい。

グリーン島について



グレートバリアリーフには約900の島々が点在しています。その中でもグリーン島のようにサンゴのかけらや砂が堆積してできたコーラルケイと呼ばれる島は約300。ここグリーン島はサンゴが積もってできた島のうえに唯一、熱帯雨林の植物が生茂るとても貴重な島なのです。

位置

グリーン島はオーストラリア大陸の東海岸沿岸から27km沖合に位置し、グリーンアイランドリーフと言うサンゴ礁の北西にあります。このグリーンアイランドリーフは、グレートバリアリーフの中ではアウトターリーフとは逆のインナーリーフ(内側のサンゴ礁)に区別されます。

保護水域

オーストラリア政府はグリーン島を特に貴重な場所として保護しています。

1. グリーン島は国立公園で、全ての商業用アクティビティーは政府からの許可制になっています。
2. 水面下にあるサンゴ礁や生物の生態系はグレートバリアリーフ海洋公園の一部とされています。
3. グリーン島と周囲のサンゴ礁はグレートバリアリーフ世界自然遺産に属し、ユネスコの世界遺産 保護基準に準じています。

島の形成

サンゴが堆積してできたコーラルケイは、広大なサンゴ礁の中でも潮流や波のない淀んだ場所のサンゴの上に次第にサンゴ砂やかけらが堆積してできました。

堆積が進み、海面に顔を出した島には海鳥が休息し、その海鳥の糞などが堆積した砂が風や潮の満ち引きで流されないように、セメントのように固める役目をします。

また、その海鳥の糞には植物の種などが含まれている時があり、その種が芽を吹き島に植物が生えるようになるのです。

島の年齢

グリーン島の正確な年齢は不明ですが、地質学者、生物学者たちの予想するグリーン島の年齢は約6000年とされています。グレートバリアリーフの島々は全て、8000年前頃にあった氷河期以降に形成されたとされています。



海洋生物

グリーン島周辺には大きく分けて2種類の水中生物環境があります。

1. 一つは浅い水域でのアマモ(海草)の棲息する環境。
2. 二つ目は浅場から始まるサンゴ礁が水深の深いところまで幅広く育っている環境。

アマモの茂る水域には多種の水中生物が生息しています。特に幼魚の絶好の隠れ場所になっている他、アマモはウミガメやジュゴンの食物となっています。グリーン島の周りのサンゴ礁には約190種類のハードコーラル(石サンゴと)、100種類以上のソフトコーラル(軟体サンゴ)が確認されています。

気候

グリーン島の気候は熱帯気候です。1月～3月は雨期で年間にするとやく2000mmの降水量があります。夏季の平均最低最高気温は24～31度、冬季(6月～8月)の平均最低最高気温は19～23度です。

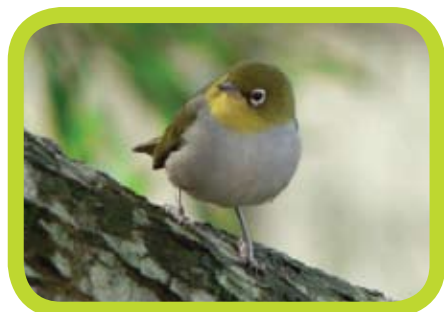
グリーン島の地理

面積	12ha
国立公園指定部分面積	7.93ha
周囲のサンゴ礁面積	1200ha
全長	660m
全幅	260m
周囲	1.6km
海拔	4m

グリーン島に棲む鳥

グリーン島の自然環境は多くの鳥を呼び寄せているようです。

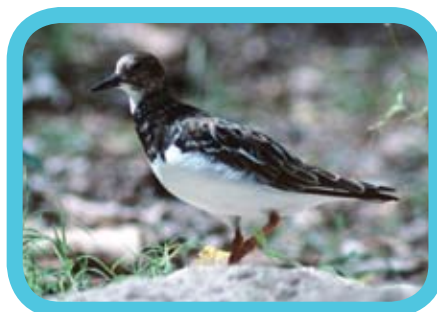
38種類の陸鳥と13種類の海鳥を見ることができ、その中の15種類は島での生息が確認されています。



メジロ

メジロは小さく動きの早い鳥です。小さなカップ状の巣を草や椰子の実の表皮繊維などで作ります。

メジロは若鳥の早い時期からつがい夫婦となり繁殖し、夫婦は一生連れ添います。



キョウジョシギ

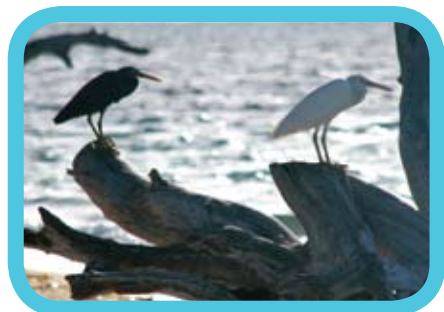
この小さな水辺に棲む鳥は、毎年、南極大陸とグレートバリアリーフの間を移動する渡り鳥です。毎年9月頃にグレートバリアリーフに飛来し、3月中頃に飛び立って行きます。クチバシを使って水辺の石をひっくり返して下の生物を捕食しています。

Image courtesy Commonwealth of Australia (GBRMPA).



ナンヨウクイナ

グリーン島で多く見られるナンヨウクイナは、地面で生活し、巣を作る鳥です。落ち葉などの下にいる昆虫などを捕食しています。成鳥の体は模様がカモフラージュになって落ち葉に溶け込んでいますが、幼鳥はフワフワの黒い綿ボールのようです。



クロサギ

クロサギはその名の通り黒色種と名前とは逆の白色種の2種類がいます。2種類とも全く同じ種のクロサギですが、人によって瞳の色が違うようにクロサギは同じ種類でも羽の色が違います。

鋭く尖ったクチバシを使って小魚やエビ、カニなどを捕食しますが、捕食した小魚は引き千切ったりせずに、そのまま頭から飲み込んでしまいます。尾から飲み込むと喉をスムーズに通じ抜けず、引っかかってしまいます。



ソデグロバト

ソデグロバトは大型のハトで渡り鳥でもあります。4月～8月の秋、冬は赤道付近のパプア・ニューギニアで過ごし、9月～3月の夏季は北部クイーンズランド沿岸やグレートバリアリーフの島々で過ごしています。グリーン島でも巣を作り繁殖しています。食べ物には主に木の实やフルーツです。

毎年3000羽のソデグロバトがグリーン島で営巣します。彼らの巣は細い枝などで簡単に作られたものです。オス、メス両方の親鳥は胃の中で消化中の食べ物からミルクのような液体を搾り出し、ヒナに与えています。巣の中のヒナを見れることは稀ですが、森のなかから、「クー」とソデグロバトの鳴き声が聞こえます。

Image courtesy Commonwealth of Australia (GBRMPA).



ミサゴ

ミサゴはクチバシを使わずに鋭い爪のある脚でエサとなる魚を捕まえます。この足はとても強く、自分の体重よりも重い2kgほどの大きさの魚でも捕まえて持ち上げ、飛ぶことができます。

つがいの夫婦は一生を共にします。グリーン島に生息するつがいは、もう何年もこの島に棲み着いています。

島の入り口から棧橋を見て左手に進んだところにヘリポートがあります。ここがアイランドウォークの出発点となります。ここでは浜の方にオクトパス・ブッシュ(和名:紋羽の木、モンパの木、ハマムラサキノキ)を見ることができます。散策道を棧橋方向へお進みください。

1



1



Messerschmidia argentea

和名:モンパノキ(ムラサキ科スナビキソウ属)

植物

小範囲に密生した灌木。根組織は広範囲に、植物の目に見える部分よりもずっと大きく広がっています。根組織が植物を支え、近辺土壌の侵食を最小限に抑えます。

葉

厚く硬い葉は、枝先に行くにつれて茂り、銀色の細かい綿毛に覆われています。これらの綿毛は、太陽の光を反射し、海水のしぶきに含まれる塩が葉の表面に接触するのを防ぎます。

花

- 定期的に開花
- 直径2ミリほどの小さな無茎の花が、幹元に花房を形成します。その形がタコの足に似ていることから、英名では「タコ灌木」と呼ばれています。

果実と種子

- 直径2ミリほどの表面が滑らかな小さい果実が、定期的に実ります。果実は、綿毛の生えた小さな裂片に包まれており、熟すと黒くなります。

利用法

- 薪に最適
- 葉は食べ物の取扱いに利用
- 若葉は生食、加熱食が可能

ヘリポートの近くにはカードウエル・キャベッジ(クサトベラ科の熱帯性常緑低木で、ハワイではナウパカと呼ばれています。オーストラリア、ポリネシアが原産といわれていますが、ハワイにも生息します。

2



2



Scaevola sericea

和名:クサトベラ(クサトベラ科 クサトベラ属)

植物

広範囲に生い茂る低木は2~3メートルにおよび、密生した群葉と半木質の茎があります。

葉

- ツヤのある薄緑色の葉は、先が丸くなっています。
- 葉は、表側の表面がワックス状にコーティングされており、丸くなる特性により日光を反射し、水分の蒸発を防ぎます。

花

- 定期的に開花
- 小さい白色の花は、ふちどりのある5弁の花びらが「半分の花」を形成します。

果実と種子

短い茎につく小さな丸い果実は、成熟するにつれて緑色から白色へと変化します。果実の中には、硬く隆起した種子が一つか二つ入っています。

利用法

- 若葉は生食、蒸食が可能です。
- 小枝はくり抜いて、パイプの製作に使用します。
- 果汁は傷、たむし、眼痛の治療に使用します。
- 葉は温めて関節痛などに使用します。

グリーン島の保護

グレート・アドベンチャーズの環境保護に対する努力は、様々な形で認識されています:

- アドバンスド・エコツーリズム・サーティフィケーション取得(オーストラリア国内で取得可能な環境保護のサーティフィケーション(認定証)の最高レベル)
- グレートバリアリーフ海洋公園当局より15年間の営業許可証を授与

グリーン島を利用する企業として、この非常に大切な世界遺産を美しく保存し、この島を訪れるお客様が素晴らしい環境を体感する事ができる機会をこの先も継続して提供していく努力をして参ります。

栈橋に向け少し進み、左の小道へ入る場所すぐ右側にチーズフルーツがあります。緑のジャガイモのような実は臭みがありますが、この実からは健康ジュースとして売られていたノニ・ジュースが作られます。

3



Morinda citrifolia

和名:ノニ(アカネ科ヤエヤマアオキ属)

木

ノニは、葉が生い茂った、細長い小さな木です。

葉

葉は、なめらかで大きく硬くて光る濃緑色で波型です。葉脈は突出し、先が尖っています。

花

- 7月から12月に開花。
- 甘い香りがする白い筒状の花で、星のような形の花びらは長さ約1cmです。

果実と種子

- 7月から12月
- 果実は、小さなイボ状に小枝に直接実をつけ、白く甘い香りの花を大量に咲かせ

ます。熟した果実の中には、1つの種子が入っています。

- 果実は非常に栄養価が高く食べられますが、長期熟成されたブルーチーズのような匂いが苦手な人は多いでしょう。熟したキウイフルーツに似た堅さです。

利用法

- 風邪や下痢の治療を目的として、熟した果実を生食します。
- 下痢の治療や葉を煎じて風邪、発熱、痛み治療用に塗布します。
- 葉は、食材を包む料理に利用します。

ノニの木から海側へ目をやるとカジュアリナ・ツリーが見えます。和名ではトクサバモクマオウといいます。幹が非常に堅い、松の葉を下向きにしたような木です。

4



Casuarina equisetifolia

和名:木麻黄(モクマオウ)モクマオウ科モクマオウ属

木

- 木麻黄は、細く葉もまばらな木から高く茂った木へと成長します。
- 松の一種のように見えますが、無関係です。
- 木麻黄の根組織は広範囲に広がり、幹の安定と周辺環境強化に役立ちます。オーストラリア国内では唯一の非マメ科で、大気中の窒素に接触できる植物です。
- 学名のCasuarinaは、ぶら下がった小枝がキャンワリ(ヒクイドリ)の羽に似ている事からつけられました。英名のShe-Oakは、木材が北半球オーク材に似ている事からつけられましたが、初期の開拓者はこの名前をあまり好みませんでした。当時“She”という言葉は、質の劣るものにつけられていたからです。もう一つの英名Whistling Pine(口笛松)は、群葉を吹き抜ける風の音に由来しています。

葉

- 長く垂れ下がった「葉」は、実は枝が進化した小枝で、葉は、小枝の節の中に見られる小さな棘です。葉は、とても小さいため表面積も小さく、結果的に保水効果をもたらしています。

花

雄花は、小枝の先に小さな尾状花として咲き、空気中に花粉を撒き散らします。目立たない雌花は、主枝に咲きます。受精が終わると膨らみ、小さな木質の錐体になります。

果実と種子

種子は小さいですが、胞子から落ちると風に吹かれて他の場所へ移動し、根を張ります。

利用法

- 木材は、槍やウーメラ(アボリジニが使用した矢)に使用。
- 若い白太や樹皮の調製品は、歯痛や口内炎の治療に使用。

ノニの木の近くにピクニックテーブルがあり、そこからさらに海の方へ寄るとゴーツ・フット、和名:ゲンバイヒルガオがあります。海岸近くに多く見られるこの植物は砂浜の露出した部分と草木の生える部分の境目に生えます。ヒルガオの花が着いていなければ見つけにくい植物です。

5



5

Ipomoea pes caprae

和名:ゲンバイヒルガオ(ヒルガオ科サツマイモ属)

植物

- ゲンバイヒルガオは、グリーン島の先駆者の植物で、ビーチから最初に目に入る植物です。開けた場所の地面に広がりますが、つたって上がることはなく、より背の高い植物が生え始めると消滅してしまいます。侵食に対する最初の防壁として、開けたビーチには必要不可欠な存在です。植物は、砂中の塊茎から芽吹きます。乾燥した気候が続くと消滅してしまいますが、雨の到来と同時に、また塊茎から芽吹き始めます。
- サツマイモと同属です。

葉

葉は卵形で、中央に刻み目があります。ヤギが地面に残す足跡に似ています。

花

- 定期的には開花。
- 花はラッパのような形で、濃赤紫色です。雨季には、ビーチで一際目立つ存在です。

果実と種子

- 主に5月から8月
- 滑らかな半木質の殻の中に、4つの綿毛に覆われた種子が入っています。

利用法

- 主根は灰で焼くと食用可。高カロリー食品。
- 葉を温めて、筋肉痛、虫刺され、水泡、炎症などに湿布します。

散策道に戻り、パンダナスの木へ。パンダナスの木は別名アダン、タコノキとも呼ばれ、木の根がタコの足のように地面より上で別れ広がっています。

6



6

Pandanus tectorius

和名:アダン(タコノキ科タコノキ属)

- Screw Palmという別名は、この木がらせん状に成長するところからつけられました。
- 根組織は独特で、容易に見つけられます。根は主幹の比較的高い位置から伸び、砂地や湿地などの不安定な環境でもしっかりと立っていられるように、幅広く張ります。根表面の特殊な細胞が、必要な塩を排出します。幹や枝は小さく尖った根瘤に覆われていますが、それらは休眠中の根で、木が不安定になればすぐに伸び始めます。

葉

アダンの葉は、長さ約1.5~2メートルでかなり薄く先細です。各枝の先に葉束がつき、椰子の木に少し似ています。葉には中央の葉軸と縁に沿って、棘がついています。

花

雄花と雌花は別々の木に咲きますが、白色で目立ちません。

果実と種子

- 7月から10月
- 果実はサッカーボール程の大きさで、丸いパイナップルのような形をしており、多

くのゆるいクシ型の節から形成されています。各節には木質の土台と、果肉を含む繊維状の先端があります。果実は、理論上は食べられますが、正しい下準備をしないと口内炎などの症状がでる場合があります。木質の殻には食べられる種子が入っています。水路や海を渡って繁殖できるよう、節は水に浮きます。

利用法

- 葉には堅い繊維質があり、ロープ、網、マット、バスケットなどに利用します。
- 果実の中心部分は、生食や煎食が可能。また、挽いてパンの材料として利用します。
- 幹には繊維状の浮力を持った中核があり、皮を剥いだ後いかだの材料として利用します。
- 薬用:
 - 胃痛、下痢、風邪などの治療用に、若い木の中核を食します。
 - 口内炎、歯痛、傷などの治療用に、茎の核を搾って飲んだり塗布したりします。

木

- ポリネシアには、雄木が雌木の近くにいない場合には、雄木が雌木の近くに歩いてくる、という話があります。実際は、太陽の光をできるだけ多く浴びるために、木が折れ曲がる時に、古い根が離れ新しい根が張ることがあり、そうすることで、5年間に最高2メートルまで一定の方向に移動できるのです。

散策道を少し進むと右側にビーチ・ハイビスカスがあります。

7



Hibiscus tilliaceus

和名:ビーチ・ハイビスカス(アオイ科フヨウ属オオハマボウ)

木

- 高さ約5~8メートル
- ビーチ・ハイビスカスは、ビーチの砂の部分から数メートル内陸に生殖します。木が絡み合い、深く生い茂る様子は、より内陸に生殖する背の高い木々の防風林のような役割をしているようです。

葉

幅の広いハート型の葉は、葉先が短く尖っています。表側は濃緑色で滑らかで、裏側は綿毛が密集して白色です。

花

- 定期的な開花
- ハイビスカスと同様の、中央が濃い紫(または赤紫)の大きく黄色い花が咲きます。
- 花は24時間咲いた後赤っぽい色に変色し、落ちてしまいます。

果実と種子

- 1月から4月
- 半木状の綿毛が生えたカプセル型。長さ約2センチで、熟すと茶色に変色して割れ、そら豆のような形の種子が顔を出します。

利用法

- 食用:
 - 花は煎じてお茶として、つぼみはジャムの材料になります。
 - 根、新芽、若葉は食用可。
- 薬用:
 - 若い白太や樹皮の煎じ液は、傷や水泡の治療に利用します。
 - 樹皮は帯状に切り、傷口を覆うために使います。
- 槍、ウーメラ(アボリジニの弓矢)、薪などに利用されます。
- 樹皮の繊維は、紐、ロープ、釣り糸や網の材料となります。

栈橋の直ぐそばまで来るとビューティーリーフ、和名:テリハボクを右側に見ることができます。テリハボクからは油が採れ、昔はその油を薬用や灯用として使っていました。種は水に浮き、海流に乗って他の土地に漂着します。

8



Calophyllum inophyllum

和名:テリハボク(オトギリソウ科テリハボク属)

木

- 短く巨大な幹
- 高水位で見られる事が多く、ビーチに向かって低く広がる枝が垂れ下がります。サイクロンに強く耐塩性で、沿岸の際でも育ちます。

葉

- 長さ10~20センチで楕円形。大きく、照りのある深緑色。
- しっかりしていて堅い。
- 葉の中央から外側に向い、平行に広がる葉脈によって区別できます。
- 樹液は茎を折ると流れ出し、ミルク状で有毒です。

花

- 11月から2月に開花
- 非常によく目立つ白色の花(直径2.5センチ)が広く群生します。
- それぞれの花には、黄色の雄しべ房があります。
- 芳香があります。

果実と種子

- 5月から8月
- 長さ2.5~5センチ
- 一つずつ小さな房が垂れ下がります。
- 熟すと果実は薄黄色になります。
- 乾燥すると、ゴルフボールサイズの堅くて茶色い玉のようになります。

利用法

- 粉末にした実の中核と赤色の着色料の混合物を、体の痛みを取るために利用します。
- 実から取れる油(有毒)は、点火用に使います。
- 鮮やかな黄色の石鹸の材料になります。
- 便秘治療薬として利用します。

栈橋入り口手前左側にはストラングラー・フィグがあります。和名はベンガル菩提樹があります。クワ科の植物です。

9



Ficus virens

和名:ベンガル菩提樹(クワ科 フィカス属)

木

- 30メートル級の巨大木に育つこともある落葉樹で、大きく頑丈な気生根を持っています。
- ベンガル菩提樹は、ほとんどの場合、他の木のくぼみに発芽します。鳥によって運ばれた種子が、栄養素である落ち葉の集まっている場所にとどまるのです。ベンガル菩提樹は、小さな新芽を日光にむかって伸ばしながら、細く控えめな根を地面に向かって伸ばします。根が地面に届き、十分な水分と栄養分を得ると、どんどん成長しはじめ、木の幹にさらに根を伸ばします。そして、親木の樹冠を葉で覆ってしまいます。根が膨張し成長すると、親木は締めつけられ窒息状態になります。最終的に親木が枯れてしまうと、天蓋部分が空の状態になり、そのスペースをベンガル菩提樹が占領します。親木は朽ち果てながら、ベンガル菩提樹に何年にも渡り栄養を提供することになるのです。

葉

- 滑らかで、少々肉厚。長さ6~14センチの長方形。
- 若葉は濃緑色でツヤがあります。

花

- 非常に小さな雄花と雌花が、肉厚の果囊(かのう)の中に入っています。
- この花を介した繁殖戦略は、自然界で最も奇妙な依存共生の関係とされています。イチジクコバチという名のハチが繁殖できるのは、イチジク科の植物の果囊の中の空洞だけで、これらの植物は、このハチを花粉の媒介者として受精します。お互いに依存しあって、共生しているのです。ハチの寿命が短いため、イチジク科の植物も頻繁に受精しなければなりません。また、イチジクの種類ごとに、異なるイチジクコバチがいます。生存をかけて、イチジク科の植物は年間を通して受精をくり返します。それが、食物の乏しい季節をたくさんの動物が切り抜ける術となっているのです。

果実と種子

- 主に3月から9月
- 長さ3~6センチの濃紫色の実の中に、種子が一つずつ入っています。

利用法

- 果実は食用可で美味。
- 膨張した根の樹皮は、釣り糸、網、バッグ、バスケット等の材料になります。

次に栈橋入り口を過ぎたところ左側にあるのが、フィッシュ・ポイズンツリーです。和名ではクロヨナと呼ばれるマメ科クロヨナ属の植物です。先住民アボリジンはこのクロヨナの葉をむしり取り、良く揉んで潮溜まりや川の淀みに投げ入れ、水中にいる魚を酸欠状態にし、浮いてきた所を捕まえていました。葉の中に含まれる成分に水中の酸素を囲んでしまい、魚がエラより酸素を吸収できなくしてしまう成分が含まれています。

10



Pongamia pinnata

和名:クロヨナ(マメ科 クロヨナ属)

木

5~20メートルに成長し、樹冠が葉で茂る落葉樹。

葉

ツヤのある濃緑で薄い葉。目立つ葉脈と尖った先端があります。

花

- 9月から11月
- パステル・ブルーやピンクがかかった白色の花房。長さ約2センチ。

果実と種子

- 6月から10月
- 滑らかな長方形の木状のさやに、丸い赤茶色の種子が一つか二つ入っています。

利用法

魚を気絶させるために用いられる多くの木の一つ。内樹皮と根を下ろし、海面に撒くと、化学反応を起こして酸素の量が急速に減ります。その結果、気絶して水面に浮いてきた魚を捕まえるのです。要らない魚は放してやると、また正気に戻り泳ぎ去ります。

さらに散策道を進むと右側にヤシの木、ココナッツ・ツリーが見られます。

11



Cocos nucifera

和名:ココヤシ(ヤシ科ココヤシ属)

木

- ヤシ科の植物
- インドネシア諸島で進化した後、浮力のある果実が潮流によって運ばれたり人類が移住したりして、太平洋全域に広まったと考えられています。
- 木のどっしりとした土台からは、節があり最高25メートルまで成長する、細長くしなやかな幹が伸び、密生する根は、不安定な砂地でも安定した支えとなります。この木は、サイクロン級の強風や、向かい風強い風の両方に耐えうる性質を持っています。
- グリーン島で見られるヤシの木は、原生のものではありません。1889年にヨーロッパ人植物学者によって、遭難船の船員たちに提供する食料となるよう植樹されました。

葉

- 幹の先から、大きな羽のような細かく分かれた葉が発芽します。

花

- 幹の先から、小さな白色の花が開花します。

果実と種子

楕円形の果実には種が一つずつ入っており、果実は厚い繊維質の殻に入っています。果実の大きさは、長さ45センチ直径20センチにおよびます。果実の中核は油分を豊富に含んでおり、約500CCの液体が入っています。ココヤシは一般的に、樹齢5~6年で最初の実をつけ、その後は、最長15年間まで実をつけ続けます。

利用法

- ココヤシの果肉を煮て抽出した油は、肌を厳しい気候による乾燥やひび割れから保護するために利用されます。
- 果実内部の果肉は食用可。果実内部の液体(ミルクと呼ばれます)は飲用可。
- 糸状の殻の用途は多様です。
 - 燃やして蚊よけとして
 - マットレスや枕の詰め物として
 - 糸状の部分を離して、裁縫用の糸として(綿糸と同等の強度があります。)

散策道をさらに進み、3番目の左へ入る小道に入って行き、ピクニックテーブルのそばに、ビーチ・アーモンドの木が見れます。和名ではクロカワズスゲと呼ばれています。この木に成る実の種の中にアーモンドに似たナッツが入っており、ビーチアーモンドと呼ばれています。

12



Terminalia arenicola

和名:クロカワズスゲ(カヤツリグサ科スゲ属)

木

熱帯雨林の一部であるクロカワズスゲは、典型的な熱帯植物の成長過程を歩みます。根組織に支えられた幅の広い土台は、複数の小さな樹幹が幹から地面に伸びて、強度や安定度が更に強化されます。長く真直ぐな剥き出しの幹は、天蓋(樹冠)に伸びています。グリーン島のインフォメーション・カウンターでも見られます。ビーチの近くに生息するクロカワズスゲは、同じく大木ですが、成長過程が異なります。高さが比較的広く幅広で、茂った様子で太い幹が特徴です。これは風の強い環境に耐えるためと、競争相手なく日光が受けられるためです。クロカワズスゲは、良性か悪性かに関係なく、着生植物や寄生虫に弱い傾向がみられます。親木から、水分や栄養分を吸い取り枯れさせてしまう寄生性の宿り木、ベンガル菩提樹などに狙われることもよくあります。

葉

- 濃緑色で洋ナシに似た形。葉先は尖っています。
- 長さ10~20センチ

花

- 11月から2月に開花。

- 小さくて白色。開花時には、強烈な「気分が悪くなるほど」甘い香りを発するため、英名では「死んだ犬の木」と呼ばれています。
- 腐敗臭を好むハエを媒介者として受精します。

果実と種子

- グリーン島に生息する果物を食べる哺乳類動物は、フルーツコウモリだけですが、この植物の種子には、こうした動物を魅了する肉薄で果汁の多い果肉があります。殻の中には小さく美味しいナッツが入っており、英名の「ビーチ・アーモンド」の由来となっています。
- 通常、果実が実った木の下の地面には、コウモリが来ている痕跡が残っています。夜間は、こうした木を避けましょう。また、種子は非常に頑丈で水に浮くため、海を渡って繁殖しやすくなっています。

利用法

- 中核(ナッツ)は食用可(プロテインとチアミンが豊富):殻を割って食べる。
- 熟した果実の紫色の果肉は、ピンク・紫の染料の材料として用いられる。

小道から散策道に戻り左へ進み、次に左へ入る小道を行くとブラッドウッドと呼ばれるハート型の大きな葉をつけた低く細い木があります。ブラッドツリー(木の血)と呼ばれるこの植物は、和名でトウダイグサ科オオバギという植物です。

13



Macaranga tanarius 和名:オオバギ(トウダイグサ科オオバギ属)

木

高さ8メートルまでの小さい木は、非常に成長が早く良く育ちます。

木

- 大きいハート型をした葉は、下葉のほぼ中心の茎から直接生えます。
- 濃緑色でやわらかい感触です。
- 長さは15~20センチ

花

- 11月から1月に開花。
- 花は緑黄色で、小枝の先や葉軸から束になって咲きます。
- 雄木と雌木があります。

果実と種子

- 1月から2月
- 果実は緑黄色の殻状で、割れると艶のある黒い種子が見えます。

利用法

- 葉を燃やした灰を食べると、腹部の膨張感に効果があります。
- 樹皮から紐が作られていました。
- 材木は、釣り矢や火おこし棒として使用しました。
- 葉は、材料を包み調理することに使いました。
- 多くの鳥が、熟した果実を食べます。

再び散策道に戻り左へ、マリンランド・メラネシアの方向へ進みます。マリンランド・メラネシア入り口の直ぐ手前右側にとても大きなコーラル・ツリーを見ることが出来ます。コーラル・ツリーは和名でデイコ(マメ科デイコ属)と言います。7月から11月にかけてきれいな赤い花が咲きます。

14



Erythrina variegata 和名:デイコ(マメ科デイコ(エリスリーナ)属)

木

- デイコはマメ科の植物で、グリーン島内で最も大きい植物です。剥き出しのビーチを除いて、島内全域で見られます。
- 成熟した木の幹には、滑らかな薄色の樹皮が見られます。デイコには樹幹根がありませんが、広範囲に密生する根組織が、木の土台部分から外に伸び出ている様子がよく見られます。

葉

滑らかで幅の広い葉片は、3つの大きな裂片に分かれ、中央の裂片が最も大きく長くなっています。

葉

- 7月から11月に開花。
- デイコは、9月か10月の毎年同じ時期に、全ての葉を落とします。その数日後、大きく赤いマメの花が劇的に登場します。大

きな赤い花と裸の枝の組み合わせは、花粉の媒介者でもある花蜜を主食とする鳥や虫にとって、大変魅力的なものなのです。

果実と種子

- 8月から10月
- 豆のような形の種子のさやは、木になっているものと地面に落ちているものの両方が年中見られます。
- 淡赤色の種子が中に入っています。

利用法

- すべすべした防水性の樹皮があるため、幹はカヌーの材料になります。
- 苗の根は焼いて食用可。
- 内樹皮は、消毒薬として利用します。
- 種子は、髪飾りやネックレスの材料になります。

グリーン島の自然に興味を持って頂けたでしょうか?この先、3分ほど進みますと散策道から右へ「解説散策道」という島の歴史や成り立ちを書いた看板の並ぶところがあります。長いグリーン島の歴史をここで探ってみては如何でしょうか。

QUICKSILVER GROUP

For more information visit www.quicksilvergroup.com.au

